

# 前立腺がんは増えている

庄原赤十字病院  
泌尿器科部長  
上田 光孝



けるようになってください。

前立腺という臓器をご存知でしょうか。前立腺は男性にしか

ない臓器で、主に精子の運動や栄養に関係する前立腺液を産生しています。大きさは栗の実大で膀胱のすぐ下にあり、中を尿道が通っています。(図1)。

年齢とともに増えてくる前立腺の病気に前立腺肥大症と前立腺がんがあります。前立腺がんは特有の自覚症状が少なく、おしっこが出にくいなどの症状が出たときは、かなり進行していることが多く、早期発見が大切ながんです。

前立腺がんはこれまで日本では少ないと言われてきましたが、生活の欧米化や高齢化に伴って急激に増えています(図2)。天皇陛下や森喜朗前総理が前立腺がんであるという報道は記憶に新しいニュースです。

## 前立腺がんは高齢者に発症しやすい

前立腺がんは50歳未満の人には少なく、60歳以降から急増

する典型的な高齢者がんです。

## ■前立腺がんの進行病期(図3)

病期A: がんが小さく検査などでは分からず、前立腺肥大症などの手術で偶然発見されるもの。  
病期B: がんが前立腺内にとどまっているもの。  
病期C: がんが前立腺の外側の被膜を破つていたり、精のう腺に達しているもの。  
病期D: がんが骨やリンパ節、肺などの遠くの臓器まで及んでいるもの。

一般に病期A、Bが早期がん、病期C、Dが進行がんといわれています。前立腺がんは特に骨に転移しやすく、腰痛などの症状を起こすこともあります。

## 前立腺がん検診のススメ

図4は前立腺検診でがんが見つかった人と、何らかの症状があつて泌尿器科を受診してがんが見つかった人の生存率が

を比較したものです。どの病期においても検診で見つかったがんの方が生存率が高いことが分かります。

前立腺がんの早期発見のため、50歳以上の方は検診をおすすめします。検査はPSA(前立腺特異抗原)の測定という血液検査で行います。正常範囲は0~4 (ng/ml)で、41以上であれば精密検査が必要です。1回の採血だけで済みますし、結果も早ければ2時間以内でわかります。PSA検査は当院はもちろん、開業されている先生でも希望すればできますし、ドック検診ではオプションで追加できることもあります。

前立腺がんは自分では見つけにくい病気ですが、定期的(1年1回)検査を受けていけば早期に発見することができ

きます。また、前立腺がんは他のがんに比べて進行が遅く、しかもがんの進行を抑える優れた治療法が開発されていますから、安心して検査や治療を受

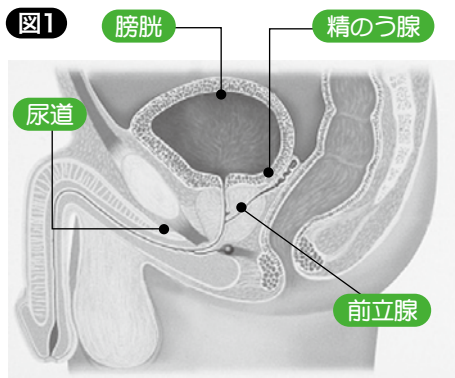


図1

図2 わが国の前立腺がん罹患と死亡の将来予測

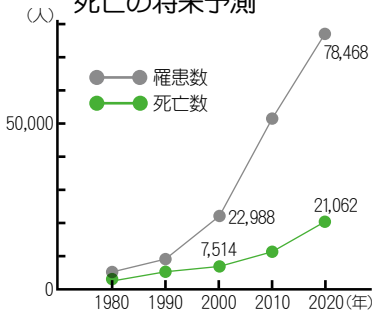


図4 検診で見つかった群と泌尿器科外来受診群の生存率の比較

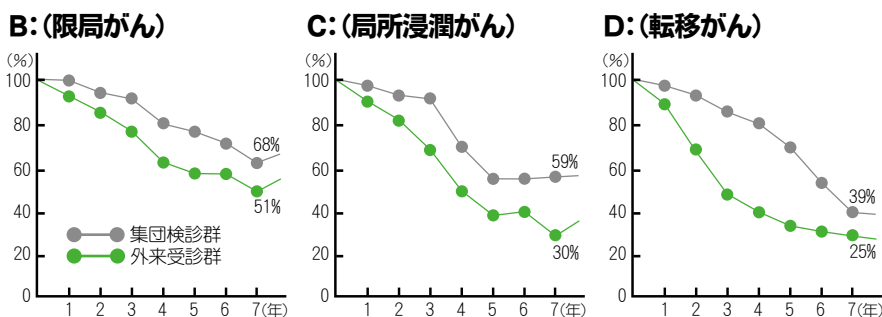


図3 前立腺がんの臨床病期

